

掬水

きくすい

題字・佐藤重義

第 48 号

令和4年7月30日発行

〈事務局〉

秋田市手形学園町 1 - 1

秋田大学教育文化学部

同窓会旭水會 内



コロナ慣れは退廃なのか

秋田市退職校長会 会長 高橋 一郎

生物学用語にアダプテーションというのがあります。訳すと「適応」とか「順応」になるのですが、適応と順応では意味が異なります。遺伝的に変化していく内容と遺伝的ではなく変化していくものがあるからです。ともあれ、機能・性質・状態などが外的条件、つまり取り巻く環境に応じて変化し、生活のために適当なものになることを言うようです。鳥の世界では環境に適応してゆく種類が結構いるのですが、特に人間の生活に依存してきたカラス類やスズメは食の世界、住の世界が、繁殖という種族保存の行動とともに、まさにつきりとした適応の姿を見せています。周りの環境に合わせるかのように、生活しやすい状態を求めてきたのだと思います。

少し前段が長くなっちゃいました。最近の我々の生活を振り返ってみますと、新型コロナウィルスによる感染が始まったところは、当たり前の生活ができにくくなり、改めて、いかに当たり前を貫くことが難しいものであったのかと感じてしまいました。人間が作り出した多くの文明・文化がいかに素晴らしいものであったのかと、生活の潤いや自由が少なくなつた現実に驚きを感じてしまいました。そして、秋田市の退職校長会が通常の会や事業が難しくなつて以来、三年目を迎えています。皆様のおかげで、昨年と今年の理事会だけはどうかやることができました。しかし、総会も、懇親会も、講演会、現職の校長会との教育懇談会なども、実施することがかなり難しくなつてきています。ここが我慢のしどころと耐えてきています。我慢も限界に近くなつてきています。来年こそは、万難を排して通常の退職校長会を実現していきたいものです。

数年続くコロナ禍の生活で、不思議なことが起き始めているのではないかと感じるがあります。それは、コロナ禍の生活に慣れはじめているのではないかと感じてしまふからです。特に我々中・高年は、何にもしない生活に慣れてきているのではありませんか。会話のほとんどが、家族とのものであるし、外出もせめて人込みではない県内に限られてきています。酒飲みの私は、たまに奥方に付き合ってもらいますが、テレビを見ながら一人で作っています。たくさんの方々とワイワイと歓談しながら楽しみたいといつも思っているのですが。しかし、それでも良いのだと思っっている自分がいるような気がして怖くなります。本当は、自分だけの生活には耐えられません。人と人が付き合うから人間だと言われています。そこに、洗練された文明や文化が築かれてきたのだと思うからです。

書き出しに、アダプテーションの話をいたしました。進化してゆく過程にある適応ならば大歓迎ですが、退廃を感じる順応には断じて抵抗いたします。私のように老人になると、可もなく、不可もない安定した生活を望むようになります。でも、それでよいのかと自問自答を繰り返しているのです。

今年の事業の開催はだいぶ難しいものになりました。うだとお話いたしました。そんな状況であつても、やれることをできるだけ頑張つてやってみませんか。県内の各都市の状況も秋田市と同様ですが、「由利本荘には」は立派に総会をやっています。他の郡市も頑張つて理事会まで漕ぎつけています。三年目を迎えて、何とか頑張ろうとする動きが出てきていることは確かですから、誠に喜ばしいことです。私も自らを奮い立たせて、楽しい退職校長会をと思っています。

最後になりましたが、現職の応援団を自認している我々の会なので、このコロナ禍で奮闘している学校現場の理解と支援ができないものかと考えています。

令和四年度総会について

今年度は、コロナ禍のため総会を中止し、代わって理事会で議案審議を実施し、承認をいただき、活動をスタートしました。

令和三年度 会務報告

月 日	事 項
四・十〇	第一回幹事会 (新年度組織分掌等)
四・十六	会計監査
四・二四	理事会 ※コロナ禍のため総会とは中止
五・二二	第二回幹事会 (会報の内容検討等)
七・三一	会報「掬水」第四十六号、 「楽しい研修」案内 発送
八・二二	第三回幹事会 (中止)
九・二五	第四回幹事会 (会報の内容検討等)
十一・六	楽しい研修「陶芸体験」 ※参加者五名
十一・一三	第二十七回現職・退職校長会教育懇談会 (次年度に延期)
十一・二三	楽しい研修「音楽を楽しむ会」 ※会長出席

令和四年度 事業計画

一・一五	第五回幹事会(入会案内方法等)
一・三一	現職校長会へ入会案内文書配布
二・二六	第六回幹事会 (次年度の組織・活動の検討等)
三・二六	会報「掬水」第四十七号 発送
一	秋田市退職校長会幹事会 年六回
二	秋田市退職校長会会計監査 四月十四日(木)
三	秋田市退職校長会理事会 四月二十三日(土)
四	※新型コロナウイルス感染拡大のため 総会を中止し、理事会のみ実施 会報「掬水」第四十八号 発送 七月三十日(土)
五	「楽しい研修」①④ 九月～二月
六	現職・退職校長会教育懇談会 十一月十二日(土) ※延期
七	※新型コロナウイルス感染状況、学校 現場の状況等を考慮し、次年度に延期 現職校長会への入会案内 一月三十一日(火)
八	会報「掬水」第四十八号 発送 三月二十五日(土)
九	叙位叙勲 随時
十	慶弔 随時

令和四年度
秋田市退職校長会役員

顧問	佐藤 重義 佐藤 俊彦	千葉 昭
会長	高橋 一郎	
副会長	伊藤 栄二	高田 均
監事	佐川 眞理	鶴田 悦子
理事	羽川 誠 松田 行正 大山 重幸	村上 義孝 齊藤 孝雄 高橋 ゆり子
県代議員 (市選出)	松山 郁子 齊藤 孝雄 鎌田 寿和	松田 行正 大山 重幸
幹事長	加賀美 俊一	
幹事	阿部 英子 大淵 正俊 角田 昭 千葉 学	刈田 茂 鈴木 巧 今田 智範

現職校長会役員の紹介

会長	濱松 寿(牛 島)	加賀谷 亨(山 王)
副会長	北嶋 尚子(保戸 野)	齋藤 渉(外旭 川)
	千葉 圭子(旭 北)	嶋崎 公人(東)
	星野 和貴(日 新)	

交流のとびら

すずめとわたし

加々谷 佐紀子

「子どもたちに本の楽しさを届けたい」と退職時心に入れた言葉。三年後「秋田県子ども読書支援センター」という全国初の任務に着き、終了後ボランティアで関わっている。八十歳になり病で薬物治療、手術、治療が続き、副作用のため体調不良、庭の木々と枝垂桜等の枝のすずめを楽しみむ日々になった。ある時、一羽のすずめが隣に口移しで何か渡す様子を親子と感じ、米粒を庭に置いてみたら次第に友達すずめも加わり、八羽の行動に興味が加わり、食事の米粒も三度になっていった。

それから二年、今年の積雪は深く食料を求めて集まったのは約八十羽。ある日、食事後飛び立たない一羽がいた。次の日も。近づく手のひらに上がった冷たい体。部屋を暖めて体温が戻り羽と脚を少し動かしたの水を飲むだけ。二日目は末期の水であった。暖かく布で包み雪下の土の中に葬った。二十日程後、また一羽が同様に亡くなった。お墓一つ。そして春になった。野菜苗を菜園に植えた時、生後すぐ(?)の裸の子すずめがいた。親を探せず助けも出来ず体の暖かさを保つだけ。二日目、初めて目と口を動かし亡くなる。墓三つ。

夏が来た。約二十羽のすずめたちは私を楽しませ食事は鳴き声で私に合図する。このすずめたちの姿を子どもたちに話したい。身近な小鳥たちを楽しく見守り、心を豊かにと念じて。

(平成十一年三月退職)



半径二〇キロ

西 信

年毎に「一年」が短くなりました。中学校の非常勤講師として、十八年間も続けられたのは、子ども達から元気をもらったからだと思ひます。ただただ感謝です。よく学び、よく働き、そして今は、よく遊べる時期。これがないかな難しい。散歩もしないし、庭仕事も興味なし、遊び歩くことには、一種の罪悪を感じます。コロナ禍の今も日常は前と全く同じです。行動範囲は半径二〇キロ以内、時間で三〇分以内です。ますますアナログ人間になり、かなり不便な生活にも満足しています。退職後多くの方々と接するなかで、男は過去に、女は未来に生きる生き物であることを実感しています。年をとっても人間を辞職するわけにもいきませんが、気持ちは年をとらないもので、年を重ねて失うものが多いが新たに得るものもあります。そのひとつが時間の使い方です。かつてない開放感と新たな発見もあります。空気そのものにさえ生命の匂いがします。まるで風に何か、特別な生物が含まれていて、それが生命の源を刺激しているように感じられます。起承転結ならぬ、起承転々の人生を享受しています。

(平成十八年三月退職)

今やれることを...

佐藤 誠子



閉校した上新城中学校の校舎協から持ってきた松葉菊が我が家で増えて、今年もかわいらしい花を咲かせている。今年は母の三回忌で、部屋を整理していたら母が孫を見ながら書いていた日記が出てきた。そこには、私が

子どもたちの名札を逆につけたり、給食袋を間違えて持たせたり、そのたびに母が対応していたことが綴られている。長男が、母に「僕のお母さんは先生だよ。うーんあれが先生なの?」学校に行っている時は先生で、家に帰ればただのお母さんだよ。」と言ったことも。私は、仕事に追われてどうやって子育てをしたのか全く記憶がないくらいである。今さらながら母には感謝の気持ちでいっぱいである。あの頃は一日があつというまで、とにかく時間がほしかった。今この年になって、同じ一日なのに時間がゆっくりと感じられる。退職してからしばらくたつが、やりたいことを見つけて過ごしている。週一回、ミニテニスを楽しんでいる。あとは、十年以上にもなるが、ヴァイオリンのレッスンを週一回受けている。なかなか上手くはないが、楽しんで演奏している。今は、夏の発表会にむけて練習中。

何が起るか予測できないご時世だからこそ、今やりたいと思うこと、やれることに取り組んでいきたいと思っている。

(平成二十七年三月退職)

新入会員の紹介

(令和四年三月退職)

お世話になります

石川 政昭



現職の頃も、皆様には様々な場でお世話になりました。大変ありがとうございました。この四月からお仲間に加えていただくことになり、とても嬉しく感じております。

現在は、県総合教育センター勤務となり、これまでとはまた違った内容の仕事で、冷や汗をかきながらも、日々新鮮な気持ちで過ご

しております。新しい一步を踏み出す中で、何かひとつチャレンジし、自分なりに意義ある一日を送れたらなあと思っています。

会員の皆様、今後も色々な機会にお声掛けくださいますよう、宜しくお願いいたします。



退職後の近況について

齋藤 徹

コロナ対応というトンネルの、出口の明かりが見え始めたところで退職となりました。現在私は中学校に再任用となり、初任研統括指導教員として、次代を担う人材の育成という仕事にやりがいを感じつつ、長きに渡ってお世話になった中学校への恩返しに気持ちで日々を過ごしております。

現職の頃から続けていた趣味のウクレレは、コロナの沈黙化とともに、夏の音楽イベントに復帰しようかとも考えているところです。

会員の皆様には、これからお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。



よろしくお願いします！

工藤 隆

退職前の二年余りは、新型コロナウイルス感染症への対応に苦慮しながらも、英知を集め、多くの方々のご支援とご協力を得て何とか前へ進んで来られたように思います。

この四月からは、会計年度任用職員として「すくくる・みらい」に勤務し、不登校児童生徒及び保護者の方との面談や支援に努める毎日を送っております。そして、一人一人の子どもに寄り添い接することに喜びを感じているところです。先輩の皆様方には、これま

でも大変お世話になりました。ありがとうございます。今後どうぞよろしくお願いいたします。



よろしくお願いします

高野 誠一郎

これまで先輩の皆様から多くの励ましとご指導をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

四月からは、認定こども園土崎幼稚園に勤務するご縁があり、幼児教育と保育に取り組んでおります。コロナ禍の苦労はありますが、園と園にかかわる人々との新たな出会いと、子どもたちの笑顔と笑い声に囲まれることの喜びを感じています。

これからは、生きることにつきましても、これまで同様にご教示いただければ幸いに存じます。



時に合わせて

大友 智加司

現職の際には、諸先輩から暖かく声をかけていただく度に大変心強く感じておりました。

六月上旬、森吉山に登りました。チングルマの可憐な花が、満開で迎えてくれました。これまでは、諸行事で時期を逸し、綿毛の姿を見ることがほとんどでした。自分を顧みると、「何かをした」という事実に重さを置き、「いつしたか」ということが足りなかったように思います。これからは、「今」という時に合わせて、物事を楽しんでいきたいと思っています。会員の皆様、お世話になります。どうぞよろしくお願い致します。

○「楽しい研修会・同好会」への案内

会員相互の親睦を図るために、次の研修会を開催します。併せて、同好会員の募集も行います。関心のあるもの、この機会にやってみようかなと思うもの……など、お一人何回でも（いくつの同好会でも）参加できますので、ぜひ、ご参加ください。

お申し込みは、別添「楽しい研修会・同好会へのお誘い」に記載されています。各研修会・同好会の「申込先」に電話やＳメール等でお申し込みください。その後、詳細を各担当からご案内いたします。たくさんのご参加をお待ちしております。（なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては開催が中止になることがあります。）

【楽しい研修会】

- ① 陶芸 工房見学と陶芸体験（初心者大歓迎）
- ② アトリオンコンサート
- ③ 秋田の名酒を飲み比べ
- ④ 企画展示、コンサートほか
（主催：赤レンガ郷土館）

【楽しい同好会】・・・（）は世話人

- ① 写真同好会（刈田 茂）
- ② グラウンド・ゴルフ同好会（上村 敦）
- ③ 酒蔵応援同好会（大山 重幸）
- ④ 音楽鑑賞同好会（羽川 誠）

※他の同好会を立ち上げたいとお考えの方は、研修担当鈴木巧までご連絡ください。（連絡先は別添に記載してあります。）